



こんにちは!

気象庁です!

10月号
平成 21 年
(2009 年)



震度階級関連解説表が新しくなりました

「気象庁震度階級関連解説表」は、ある震度の揺れがあった場合に実際にどのような現象や被害が発生するかをわかりやすく解説したものです。これまで使用していた解説表は作成から 10 年以上が経過し、社会の変化とともに時代に合わない点が出てきていました。このため、平成 21 年 3 月 31 日より新しい解説表に改定しました。

震度階級と被害との基本的な関係は、新しい解説表においても従来のものから変更はありません。新しい解説表は表現をより分かりやすくし、近年の地震被害で社会的に注目された事項を追加しました。

解説表の主な変更点は以下のとおりです。

- 震度 6 強と震度 7 は人間の感覚では区別が困難なため、人の体感・行動の事項を統合しました。
- 木造建物や鉄筋コンクリート造の建物の状況は、耐震性の高低に応じた記載としました。また、実際よりも大きな被害をイメージさせる用語が用いられていたことから、適切な表現に変更しました。
- 被害などの数量や程度の表現には、「かなり」や「多い」など意味があいまいな用語を避け、用語の意味を定義して使用しました。

なお、解説表の変更に伴い、一般の方々向けに震度に対応する被害等の状況が簡潔にわかるイラスト付きの資料を作成しました（右図）。また、防災担当者の方々の利便性を考慮し、解説表の利用に当たって参考となる資料

を添付した「気象庁震度階級の解説」を別途作成しました。新しい「気象庁震度階級関連解説表」や上記資料につきましては、気象庁ホームページに掲載しております。どうぞご利用ください。

震度と揺れ等の状況（概要）

震度	状況（概要）
0	【震度 0】人は揺れを感じない。
1	【震度 1】屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2	【震度 2】屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
3	【震度 3】屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。
4	【震度 4】 ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。
5 弱	【震度 5 弱】 ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につままりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものも倒れることがある。
5 強	【震度 5 強】 ● 物につかまらなさと歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6 弱	【震度 6 弱】 ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6 強	【震度 6 強】 ● はわないと歩くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
7	【震度 7】 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

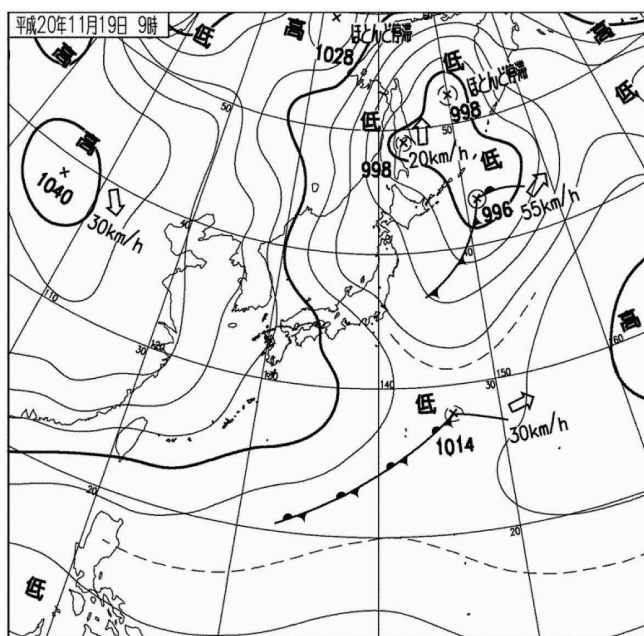


11月の気象

●●● ～冬の便り～ ●●●

11月は、寒暖の変動を繰り返しながら、日々気温が大きく下がっていく時期で、月はじめと月末では日平均気温が5℃から6℃程度違ってきます。大陸から日本付近に寒気が南下しやすくなり、各地で初霜や初氷の便りが聞かれるようになります。また、冬型の気圧配置が現われることが増えて、太平洋側では次第に晴れの日が多くなり、日本海側では曇りや雨または雪の日が多くなります。北日本の山岳では積雪が見られるようになり、早いところでは11月中からオープンするスキー場もあります。北日本から東日本では日本海側を中心に、平野部でも雪を観測する時期となります。平年の初雪日は、札幌では10月27日、秋田では11月12日、新潟では11月24日となっています。

平成20年11月中旬後半から下旬前半にかけて、この時期としてはかなり強い寒気が西日本を中心に南下し、冬型の気圧配置が強まりました(図はこの間最も寒気の影響が強まった日の地上天気図)。これに伴い、気温は平年を大幅に下回り、日本海側中心に各地で雪が降り、平年では12月以降に初雪を観測する西日本でも初雪を観測したところがありました。例えば広島では11月19日に平年より20日も早い初雪を観測するとともに、翌朝の最低気温は平年より7℃も低い0.2℃を記録しました。



気象庁では、平成20年3月より、概ね1週先から2週先を対象として、1週間の平均気温が平年よりかなり低く(高く)なる可能性が高まった場合に、その出現確率とともに影響に対する注意を呼びかける異常天候早期警戒情報の提供を行っています。この年の11月11日には、近畿地方や中国地方などで18日以降の1週間の気温がかなり低くなる旨の異常天候早期警戒情報を発表しました。

こうした気象情報を上手に利用し、急な寒さにも体調を崩さぬよう注意したり、冬用タイヤの準備や装着など、日常生活にも活かしましょう。

発行 気象庁総務部総務課広報室

気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/> にも掲載しています。